

しいの木 ニコニコだよ



おたふくかぜってなあに？

ムンプスウイルスの感染によって、耳下腺（耳の下の部分）や、あごの下が腫れ、痛みや発熱を伴います。正式名称は「流行性耳下腺炎」ですが、左右両方の耳下腺が腫れると、おたふくのような顔になるため“おたふくかぜ”と呼ばれるようになりました。自然感染では10人に1人くらいの割合で、ウイルスが脳を包んでいる髄膜に侵入し、無菌性髄膜炎を併発します。また、片方もしくは両耳が難聴になることもあり、併発した場合、治療法がなく聴力が回復することは難しいと言われています。思春期以降にかかると、男性は睾丸炎、女性は卵巣炎にかかることもあります。



みずぼうそうってなあに？

水痘帯状疱疹ウイルスに感染後、約2週間の潜伏期間を経て全身にかゆみを伴う小さな赤い発疹、その後に水ぶくれが現れます。発熱がある場合とない場合があります、完治するまでには1週間前後を要します。みずぼうそうに関して、わざわざ予防接種を受けなくても…という意見もあります。確かにみずぼうそうは合併症も少なく、健康な子供がかかった場合には、軽い症状で終わることが多い病気です。



しかし、1年間に100万人程度がみずぼうそうにかかり、最低でも4000人程度が重症化により入院し、20人程度が命を落としています。また、1度感染すると水痘ウイルスが体の中に潜んで、将来「帯状疱疹（強い痛みを伴う水疱状の発疹）」を引き起こす原因にもなります。

おたふく・水ぼうそうの予防接種は1歳から2回の接種で予防しましょう

おたふく・水痘の予防接種は従来1回だけの接種でした。予防接種をされる方が増えてきたという事もあり、以前と比べ大流行することが減ってきています。おたふく・水痘の子との接触が減ったため、1回の予防接種だけでは生涯免疫を維持することが難しくなっています。その為、おたふくは1回目から3～5年後に2回目の接種、水痘は1回目から半年～1年後に2回目の接種をお勧めします。

